

下田まち遺産を未来に

下田まち遺産 手帖 vol.4

下田まち遺産を皆さんと共に未来へ

「下田まち遺産」とは下田の人たちが昔から大切にしてきたもの、これから新たに大切にしていきたいものです。美しい砂浜や歴史的な景観、伝統や人の営みによって育まれる地域文化などは、まさに「下田まち遺産」です。これは時代が変わっても人の心に残り続ける下田の誇りとなります。これらを未来に活かすためにも、私たちの力を合わせて守っていく必要があります。どうか、皆様のご理解、ご協力をお願いします。

景観まちづくり市民会議委員がオススメ

私のとおき「下田まち遺産」

三穂ヶ崎 みほがさき

<紹介者>

下田市景観まちづくり市民会議委員 藤井建彦さん

下田のまちの素朴な魅力は、高度経済成長の時代に次々と目の前の風景から姿を消してしまいました。巨大で無機質な建造物が風景写真の中に目立ち、半世紀以上も前の写真や古い絵葉書を懐かしく眺めるようになったのは、単に年をとってしまったからではないと思っています。

下田市では条例を制定して、景観や文化を「下田まち遺産」として認定し、将来に向けて大切にしていこうと動き始めました。このことをきっかけに市民の皆さんから多くの景観や歴史、文化が提案され、現在 130 件の「下田まち遺産」が認定されました。白浜には現在十数件の「下田まち遺産」がありますが、白浜生まれ、白浜育ちの私としては今回その中からぜひ三穂ヶ崎を紹介させていただきたいと思います。

風光明媚な場所として知られる白浜の三穂ヶ崎ですが、ほとんどの場合はこの岬を遠くから眺めるにとどまり、先端まで来るのは、釣り人が白浜の隣、外浦地区から来るウォーキングの人たちだけかもしれません。この季節、白浜というと夏の海の喧騒がまず思い浮かびますが、白い砂浜がきれいな白浜海岸に勝るとも劣らない絶景スポットとして今、高根山と並んで地元でも一部注目されているのが三穂ヶ崎です。特に冬、空気の澄んだ青空の日には、大島や新島を間近に望み、目の前に浮かぶ外浦沖の島々や爪木島などをすがすがしく眺めることができます。足元のインシグクやツワブキなどの海滨植物の花に目を奪われる季節もあります。

また、三穂ヶ崎は、風景や自然の美しさだけでなく、古代の祭祀遺跡や、幕末期の海防施設である三穂ヶ崎台場など貴重な遺跡があることでも知られています。

先端の展望台付近は、昭和 49 年に史跡指定された祭祀遺跡です。祭祀遺跡というのは古代、神を祭る儀式(祭祀)が行われたり、その時に使われた特殊な遺物が発見される場所のことで、主に集落や、日常生活の場所から少し離れた場所にあります。ここ、三穂ヶ崎の先端部



三穂ヶ崎から白浜大浜海岸をみる

分からは石で作られた勾玉や臼玉などが多数発見され、海や島を「まつり」の対象にした 5 世紀頃の祭祀遺跡だと考えられています。

もうひとつ、国道から数十メートル入った平らな場所は、平成 23 年に下田市が購入し史跡指定したお台場遺跡です。台場とは、18 世紀末、日本の沿岸に姿を現し始めた外国船からの防衛のため、幕府や諸藩が沿岸部や港などに築造した砲台のことで、三穂ヶ崎台場は、ペリーの来航する 10 年ほど前の天保 14 年(1843)に白浜を領していた水野藩(沼津藩)によって築かれました。三穂ヶ崎台場は、岬の中央部分に構築されており、現在でも岩壁を掘って作られた石塁や石積みなどで区画された東西約 40m、南北約 25mの平らな陣地を中心に、その北側には白浜海岸側を守るかたちで 5 箇所の土塁に囲まれた平地が当時の姿を保ったまま残されています。

水野藩は白浜のほか、稲取や富戸、川奈のあわせて 4 箇所の台場を築きましたが、後世の開発などにより壊されたものが多く、三穂ヶ崎台場のように土塁や石塁、陣地などが当時のまに残されているところはほかにありません。

先端部分からの眺望は 270 度、台風には壊されたままになっている東屋の残骸がちよっと気になりますが、国道沿いの入り口には駐車場もあります。人口の減少が止まらないとはいえ全国に知られた歴史のまち下田市です。私たちは、この自然と歴史をまもり続けていかなければなりません。そのためには美しく魅力的な自然の中に東屋のような人工物が本当に必要だったのかということをあらためて感じさせてくれている三穂ヶ崎を皆さんもぜひ一度訪ねてみてください。

下田まち遺産ニュース その1

「登録まち遺産・石原邸」を補修工事。



修繕前

修繕後

歴史的な建物は歴史的景観を守る上でも重要になります。下田市では下田登録まち遺産の建物に対して、修繕の際にかかる費用の一部を助成しています。最近行われた助成物件をご紹介します。

石原邸は長年の風雨と建物の老朽化により、雨もりと共に外壁の漆喰が浮き上がっていました。雨もりは建物の部材を腐食させ、建物全体に深刻な問題を引き起こします。また、漆喰は過去に剥がれ落ちた形跡があり、モルタルで修繕しただけで、残っている漆喰部分も今後剥がれ落ちる恐れがありました。そのため、残った漆喰を剥がし落とした上で修繕を行いました。下田登録まち遺産である石原邸を後世に残していくため、市としても修繕費の一部を助成させていただきました。(石原邸の場所は本誌 10 ページ記載)

下田まち遺産ニュース その2

富士山世界遺産登録に伴う「不法看板一斉撤去 59 枚」

平成 25 年 6 月 22 日、富士山の世界遺産登録が決定されました。それに伴い、富士山周辺地域には来遊客が多く訪れることが予想されました。そこで、静岡県・山梨県・神奈川県との三県合同による不法看板一斉撤去を行い、下田市では主要幹線沿いにあった 59 枚の不法看板を撤去しました。

ご自分の建物や塀・柵などに無断で設置された看板については、景観のためにも撤去をお願いします。



撤去前

撤去後

下田まち遺産ニュース その3

「まちなかサイン看板」も景観配慮。



サイン看板(中島橋交差点)

地図看板(下田郵便局前)

旧町内を訪れる来遊客から歩く際に道がわかりにくいといった声や、地元の各団体が様々な種類の看板を設置し、また老朽化するなどにより、わかりにくくなっているという現状がありました。

そこで、下田市産業振興課が宝くじの社会貢献広報事業により、景観に配慮した誘導サイン看板を製作しました。製作にあたっては、下田市景観まちづくり審議会で意見を聞き、統一したデザインのサイン看板を 30 箇所以上に設置しました。今では落ち着いた色のサイン看板が町中に設置され、良好な景観を形成できました。

平成 25 年 4 月から「下田まち遺産」を担当しています下田市建設課の小川です。下田には未来へ残していきたい財産である「下田まち遺産」がたくさんあります。この「下田まち遺産」を未来へ残していけるよう、市民の皆さまのご協力を得ながら取り組んでいきたいと思っています。皆さま、これからよろしくお願いします。

はじめまして。

新しく担当となりました小川です。

